

●タイヤをホイールから外し、交換したエアバルブにセンサーを取り付ける。空気圧を感じるとスイッチが入り、データを送信する



●カムロード、ハイエースの純正ホイールでゴムバルブの径に対応。ホイール変更の場合は、オプションのアタッチメントが必要なことも



●タイヤ内温度も空気圧と同様にモニターで受信する。タイヤの空気圧と温度を交互にモニターに表示することもできる



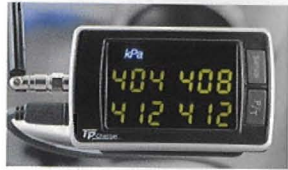
●ワザと右フロントのタイヤの空気圧を抜いてワーニング表示してみた。今回は330kPaを下回ると警告表示するように設定

●TP Checkerを取り付けたのはキャブコンのプログレス。ロータスRV販売の品田幸一さんの個人車へ取り付けさせてもらった



TP Checker LT409

価格：7万9800円
◎ロータスRV販売 ☎03-3931-1280
www.rotas-rv.co.jp



●タイヤ内に取り付けたセンサーからデータが30秒ごとに1回送られてきて、モニターに表示する。単位はkPa(キロパスカル)



●ロープレッシャーワーニング
280～380kPa



●ハイプレッシャーワーニング
520～720kPa



●温度警告設定
60～100度C

タイヤのバーストを未然に防ぐ！ ライトトラックにも対応した 空気圧警報装置

アメリカでは新車販売に対して2007年9月より装着が義務化されたTPMS(タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム)。空気圧低下でバーストが起き、事故につながったのが義務化のきっかけ。タイヤの空気圧を計測してモニター、監視する仕組みで、日本でもトヨタ・レクサスの一部グレードには標準装備されている。

最近のAC誌への投稿でもタイヤバーストの話題があったが、重量のあるキャンピングカーを支えるタイヤの空気圧は重要だ。たかが空気圧と侮ってはいけない。クルマを安全に走らせるためには非常に重要な要素となるのだ。

以前、誌面で紹介したTP checkerは乗用車用のもので、今回新しく発売になったのは、より高い空気圧までを計測できるライトトラック用のTPMS。420kPa以上、720kPa以下の空気圧に対応する。

センサーはタイヤの内側にバルブといっしょに取り付ける。センサーのバッテリー寿命は約3～5年。バッテリーが切れたら、センサー部分を交換する。リペアセンサーは1個7850円なので4輪分ならば、3万1400円となる。

タイヤ取り付けを終えたときの空気圧は右前408、左前404、右後412、左後412kPa。外気温31度Cのなか、わずか10数分のドライブで、右前420、左前420、右後428、左後416kPaとアップした。温度は左前が32度Cから43度Cへと一番変化が大きかった。タイヤの空気圧、温度を意識することで運転も変わるはずだ。またリヤダブルタイヤのクルマに取り付けるLT609(6輪用)も発売中。価格は11万2500円となる。

テスト結果

キャンピングカー&
アウトドア
満喫マガジン

～タイプ別7モデル・ハイエース標準ボディ解剖～

8
AUG.2008

AUTO AMPER

オートキャンパー



WELCOME TO CAMP LIFE!!



最新欧州モデルの 魅力に迫る

日本上陸ラッシュ!

Special Report

災害発生から3日間を過ごす

キャンピングカー シェルター化計画

Hot! Topics

採って編んで「滞在型キャンプのススメ」

新製品テストSPL この夏欲しい6アイテム!

オーストラリア人夫婦の世界一周キャラバン

NEW CAMPER CHECK!
ライト
エース
キャブコン
新登場

